

古書のたのしみ（令和四年八月）

土屋 博

「新編紫史 一名通俗源氏物語 卷三下、卷四下」増田于信著

（誠之堂伊藤岩治郎、明治廿三年刊）

古書價格各二百圓也。和綴。極めて状態の良き端本なり。卷三下には十四帖濔標より十八帖松風までを、卷四下には廿二帖玉鬘より廿四帖胡蝶までを収録す。國學者増田于信（ゆきのぶ）は文久二年生れ、宮内省御用掛。國學者本居豊穎（とよかい）の養子となるも離縁、子息に作曲家本居長世あり。

「國文學史教科書 全」芳賀矢一閱、鈴木暢幸著

（合資會社富山房、明治三十七年訂正三版、一一六頁）

古書價格五百圓也。初版は明治三十六年。和綴。古今集については、「賀茂真淵翁が萬葉集は男らしく古今集は女らしと評したるにたがはず、想に於ても詞に於ても両者著しき相違あり」と。また、伊勢物語については、「竹取は文章を主とし、伊勢は歌を主とす。何人か業平自身の記述に筆を加へたるものなるべし」と。紫式部については、「幼にして總敏、兄惟規の史記を誦するをき、兄に先んじて之をそらんぜしかば、父此の子の男ならざりしを惜みきと云ふ」と。

「新註古今和歌集講義 上下」増田于信先生・生田目経徳先生講述

（東京書肆誠之堂、明治卅八年六版、正價金六拾錢、計四四三頁）

古書價格千圓。和綴。初版は明治三十年。「諸家の注書どもあまた出でたれど、いづれも四書の外に出でず」と。四書とは、契沖阿闍梨古今餘材抄、賀茂真淵翁古今和歌集打聴、本居宣長古今集遠鏡、香川景樹古今集正義、之なり。

「古今和歌集評釋」金子元臣著

（明治書院、大正五年七版、定價金貳圓八拾錢、本文一〇〇六頁）

古書價格三百三十圓也。初版は明治四十一年。金子元臣は明治元年生れ、昭和十九年歿の國文學者、歌人。國學院大學、慶應大學教授を歴任。賀茂真淵曰く、「今、その調のさまを見るに、大和國は丈夫國にして、古は女もますらをに倣へり。かれ、萬葉の振は、すべてますらをの手振なり。かれ古今歌集の歌は手弱女の姿なり」と。

「百人一首評釋 全」金子元臣・柴山啓一郎合著

（明治書院、大正七年九版、定價金四拾錢、一二六頁）

古書價格五百圓也。初版は明治三十三年。最後の順徳院「百しきやふるき軒端をしのぶにもなほあまりある昔なりけり」の意は、「禁裏の軒端に忍ぶ草が生ふるまで衰へたる世なれば、昔の帝室の盛なる事を思ひ慕うても慕ひ切れずして、ヤハリ慕ふに餘りある昔であるワイ、となり」と。

「名著國文選 全」佐藤正範編

(山海堂、大正十年刊、定價金四拾錢、一七〇頁)

古書價格五百圓也。大正十一年一月文部省檢定済の教科書なり。目次は以下の如し。取り纏めの仕方、興味深し。

第一類隨筆類(年々隨筆、徒然草)

第二類家集類(鈴屋集、松屋文集)

第三類歴史類(神皇正統記、増鏡)

第四類軍記類(太平記、平家物語)

第五類紀行類(奥の細道、東關紀行)

第六類現代文類(樗牛全集、東圃遺稿)

「名著漢文選 全」佐藤正範編

(山海堂、大正十年刊、定價金四拾錢、一六二頁)

古書價格三百五拾圓也。目次は以下の如し。日本と中国の著者の對應關係に注目すべし。

第一類教訓類(貝原益軒慎思録、朱子近思録)

第二類史談類(大槻清崇近古史談、蒙求)

第三類歴史類(頼山陽日本政記、史記)

第四類紀行類(棧雲峽兩日記、入蜀記)

第五類文章類(日本文章規範、唐宋八家文)

「李太白詩集 上中下」久保天隨譯解

(國民文庫刊行會、昭和四年再版、非賣品、八一四頁十八二六頁十八二八頁)

古書價格千五百圓也。天金。天隨曰く、「庶幾うはくは以て太白集の定本と為すに足らむか」と。久保天隨は東京帝大漢文科卒、台北帝大教授。明治八年生れ、昭和九年台灣にて落雷の爲逝去。

「萬葉集新講」文學士次田潤著

(成美堂、昭和六年改訂十版、定價金六圓五拾錢、本文六六一頁)

古書價格二千五百圓也。初版は大正十年。芳賀矢一、序文に曰く、「とにかく、萬葉集は将来幾千万年の後までも日本人の讀まなければならぬもの、永世不朽の寶物である」と。次田潤は明治十七年生れ、昭和四十一年歿。東京帝大卒業。神宮皇學館、七高、學習院、

一高の教授を歴任す。大海人皇子の「紫のほへる妹をにくくあらば人妻ゆゑにわれこひめやも」の通釋は、「紫草の色のやうに美しい御身をにくい人だと思ふならば、人妻と定つてゐる御身であるのをどうしてこんなに慕ふものか」と。

「新修 萬葉集評釋」山路光顯著

(莊文社、昭和十年四版、定價金參圓五拾錢、六四八頁)

古書價格九百八拾圓也。初版は昭和八年。五十音索引もありて便利なれば、二度目の購入とはなれり。大海人皇子の「紫のほへる妹をにくくあらば人妻ゆゑにわれこひめやも」の通釋は、「さうさうお咎めなさいますな。紫草の匂うてゐるやうに美しいあなたをにくく思つたならば、あなたは人妻でゐらつしやるものを、どうしてかう戀ひ慕ひませうか。一方ならずいとしく思へばこそ袖を振つたりするのです」と。

「四書新釋 大學」東京文理科大學助教授内野台嶺

古書價格五百圓也。大學は、孟子と同様に、人間は生れながらに仁義禮智といふ本然の性を付与せらると説く。

「古事記新講」次田潤著

(明治書院、昭和十二年二十五版、定價金五圓)

古書價格六百五拾圓也。同じ著者の「萬葉集新講」と同様の研究方法を踏まへたるも、更に著者の佐賀高校、次いで鹿児島七高に奉職したる間の上古史に關係する遺蹟の踏破も本書に反映せられたる由。二十五版はかなりのベストセラーなり。

「大學・中庸」東京帝國大學名誉教授宇野哲人校訂

(東京開成館、昭和十六年刊、定價金四十五錢)

古書價格五百圓也。和綴。教科書、書き込みあり。

「折口信夫全集 第四卷、第五卷 口訳萬葉集上下」

(中公文庫、昭和五十年刊、五六六頁十五一〇頁)

古書價格四百圓也。物である。故に著者は未熟の書として早く絶版に附し、幾度か自ら改譯を企てたが、遂に完成を見なかつた」と。大海人皇子の歌の譯は、「ほれぼれとするやうないといい人だ。そのお前が憎いくらゐるなら、既に人妻であるのに、そのお前の爲に、どうして私が、こんなに焦れてゐるものか」と。

「契沖筆 古今和歌集」

(鶴見大學復刻、昭和六十一年刊、

古書價格五百圓也。鶴見大學新図書館竣工記念出版物。契沖といへば市川浩先生を思ひ浮かべつつ、直ちに購入す。池田利夫氏の解説によらば、書寫の時期は天和、貞享の頃と推察せらる。

「梗概源氏物語」 与謝野晶子著

(武蔵野書院、平成五年刊、定價三千圓、一四二頁十活字翻刻)

古書價格三百圓也。鶴見大學の所有する与謝野晶子直筆四百字詰原稿七十枚を写真製版したるもの、巻末には五色紙活字翻刻も附す。梗概を語るに与謝野晶子ほど相応しき人物無く、その筆跡に接しつつ、贅沢なる氣分を味はふことを得。晶子自身によるルビ附きなるも嬉し。「光源氏とは第一の卷桐壺に今上と申してある帝の第二皇子である。」に始まる。

平成五年二月二十三日の朝日新聞夕刊は源氏物語の「超早わかり」と絶賛せしとぞ。苟も源氏物語を學ばんとする者にとりては、注目されて然るべき、稀に見る美しき書と覺ゆ。

「對譯 萬葉戀歌 Love Songs from the Manyōshū」

(講談社インターナショナル、平成十二年刊、定價二千圓十税、一六七頁)

額田王「あかねさす」より讀人不詳の「あしひきの山椿咲く八つ峰越え鹿待つ君が齋ひ妻かも」まで三十五首の秀歌を大岡信が解説し、リービ英雄の英譯、宮田雅之の切り絵を附す。

「萬葉の艶 Manyo Luster」

(パイインターナショナル、平成二十六年刊、定價千九百圓十税)

一番雄略天皇「籠もよみ籠持ち」より四千五百十六番大伴家持「新しき年の始の初春の今日降る雪のいや重け吉事」までのアンソロジーなり。リービ英雄の英譯に、中西進の現代語訳本文、井上博道の寫眞を附す。

「日本文學全集 第二卷 口譯萬葉集ほか」

(河出書房新社、平成二十七年刊、定價二千六百圓十税、四三七頁)

古書價格千圓也。池澤夏樹個人編輯の日本文學全集より。池澤の解説より、「折口信夫は若い時に金策の手段として萬葉集の現代語譯を思ひ立つた。ことは急を要するから自分の手で書くのではなく口述筆記すると決め、歳下の友人三名を動員して三ヶ月で四千五百首ほどを譯し終へた」と。ここには二百三首のみを収録し、折口信夫本人の改稿分を含む。

(令和四年九月六日受附)